

日 付	2019年7月22日(月)	天 候	晴れ
主な日程	SUN・MAIDぶどう園、FOSTER FARMS、TULARE高校農場		
時 間	研 修 内 容	研修の写真	
10:30 SAN・MAIDぶどう園農場	歴史ある世界最大のレーズンメーカーのサン・メイドぶどう園を訪問し、農場責任者からお話を伺いました。この農場ではケーブルスタイルとオーバーヘッドの2種類の方法で生産が行われていました。多くの工程で管理作業の機械化が進んでいて、特に水管理についてはセンサーを用いて、効率よくかん水作業が行われていました。かん水は液肥を混ぜる方法で行われていましたが、根が吸収できる肥料の量の限度を計算して液肥を与えることで、地下水に配慮した農業が実践されていました。また、ケーブルスタイルとオーバーヘッドでは栽培面積が同じでも、収量はオーバーヘッドの方が約1.5倍多くなるそうです。さらに支柱などの間隔は工学的知見を基にして算出されており、「無駄なく資材を利用する」という、大規模経営だからこその視点を学ぶことができました。	 	
12:45 FOSTER FARMS	カリフォルニア州では最大規模、全米では7番目に大きい規模で経営する、ニワトリの飼料生産会社を訪問しました。 飼料生産の工程は、ほぼ全てが機械化されており、一連のオペレートは20名ほどのスタッフで行われていました。また最近では、オーガニックの飼料生産を行っているとのことでした。ここの施設の生産能力は非常に大きく、現在の稼働率は全生産能力の23%程度と、まだまだ余裕がある施設であることも伺いました。この工場で生産された飼料は、カリフォルニア州全体に出荷されており、広く使用されているそうです。 環境への配慮という観点では、入荷した飼料原料等は少量でも廃棄をせず、全てを使い切ることで廃棄ロスを無くし、環境負荷を軽減しているとのことでした。	 	
16:00 TULARE高校農場	夕方からは、今回の研修で、私たちが交流しているTULARE高校の農場で研修、今回は特に畜産、酪農、養豚について学びました。 牛の飼育では、飼料は学校の敷地で採れたものを使い、牛の栄養管理をする専門家の助言を受けながら飼料設計を変更しているとのことでした。また、生徒の課題研究では、プロジェクト学習として飼育・栽培を行う際、その費用は個人で負担しているが、売却で得られた収益は生徒たちで分配されており、農業経営について、肌で感じながらリアルに学んでいたことが印象的でした。肉質改善や野菜の品質など、生徒たちで話し合って結論を出していくアメリカの高校生の姿に刺激を受け、その答えが市場や消費者にあるという考え方に立った実践活動に感動しました。		
一日を終えて	アメリカで初めての農場視察の研修がスタートしました。最初に訪れたぶどう園は、これまで見たことがない規模でびっくりしました。また、ニワトリの飼料生産工場も大きな工場にも関わらず、オートメーション化によって人がほとんどいないことに驚きました。明日からの研修でも、日本との違いをしっかりと学んでいきたいと思えます。 文責：市原李保		